

企業紹介

八木竹工業 株式会社

☎099-220-8127 (鹿児島営業所)

薩摩川内市入来町

東京に生まれた職人の街にある「匠の箱」で
アイデア・人との出遭いを模索する

東京のJR秋葉原駅と御徒町駅間の高架下に、「2k540 AKI-OKA ARTISAN®」という職人の街がある。その中のショップ「匠の箱」では日本の伝統工芸を職人が実演販売。国内外から熱い視線を浴びている。職人の中心メンバーの一人である同社3代目の八木秀作さんは今、東京と鹿児島を行き来する毎日だ。竹林面積日本一を誇る鹿児島県は、昔から竹細工文化が発達していた。しかし製品の多くは京都や大分の間屋へ流れ、「京都産」「大分産」として全国へ流通してしまっている。八木さんの夢は、鹿児島の伝統工芸のファンを増やすことだ。「お客さんと直接やり取りをすると、新たなアイデアが湧いてきます。また私たちの思いを伝えていく中で、もしかしたら『弟子』となるような人材と出遭えるかもしれない。職人仲間と一緒に可能性に挑戦したい。」八木さんは出展をより大きな視点でとらえている。



1. 東京・JR秋葉原駅から徒歩5分の場所にある「2k540 AKI-OKA ARTISAN」。八木さんは竹細工のワークショップも開催。好評を博している 2. 軽くて丈夫だけでなく、カビや虫がつきにくい竹製品は「使ってなんぼ」と八木さん。さらに年月を経てあめ色へと変色した竹細工も美しい 3. 八木さんの実演シーン。「量産すればいい時代は過ぎた。匠の箱は、これまでとは切り口を変えて、自分たちで全部企画できるのがおもしろい」



本社／薩摩川内市入来町副田6141
創業／大正14年
代表者／八木秀作
内容／竹製品製造・販売
URL／<http://shop.gokuh.biz/yagitake>

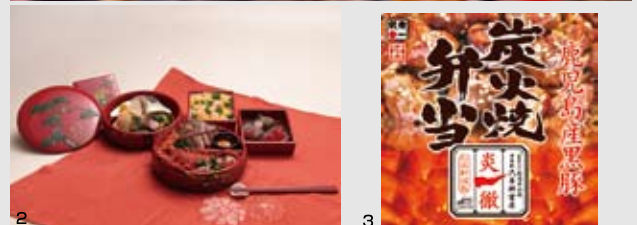
株式会社 松栄軒

☎0996-62-0617

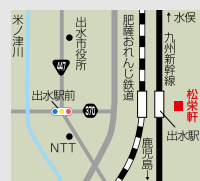
出水市

「おいしい」の基本を大切にしながら
インパクトやデザインで存在感を現す

昭和4年の日本国有鉄道鹿児島本線開通と共に創業。順風満帆に歴史を重ねてきたように見える同社だが、5代目社長・松山幸右さんは「駅弁は斜陽産業」と話す。大きな転機は平成17年に“駅弁の甲子園”といわれる東京・京王百貨店の「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」への出展だ。鹿児島の食材を使った幕の内でも臨んだが、評判は今一つ。「インパクトに欠けたのでは」との反省から、五感に訴える料理とアピールの手法を追及してきた。以来、大都市の百貨店や催事からのオファーが後を絶たない。「思い出」「わくわく感」をキーワードにした駅弁は非日常である旅の一助となるもの。パッケージや運びやすさといった点も熟考します。現在、駅弁と仕出の割合は4:6。地元にとって駅弁はなじみが薄いかもしれないが、全国的な知名度が上がること＝ブランドの確立により、仕出の需要も増えてきている。



1. 県外の百貨店や催事に招かれて出展する際は、目が回るほどの忙しさ。松山さんは2週間の出張で約5kgも体重が減ってしまうという 2. 九州新幹線の全線開通を記念して、薩摩焼とコラボした特別弁当を企画。発表時には10万円という金額ながら、HPに4万件ものアクセスがあった 3. たくさんの中から選んでもらうにはデザインも重要。「炎一徹」は「食で鹿児島の文化を発信したい」という松山さんによる駅弁のブランド名



本社／出水市上鯖淵621-4-1F
創業／昭和4年
代表者／松山幸右
事業内容／駅弁・仕出の製造・販売
URL／<http://www.shoeiken.com>

地域見聞録

指宿市

指宿ブランド産品協会
会長 山下建二さん



今年で30回を数えた「いぶすき菜の花マラソン大会」の風景。特産品は副賞として入賞者へ贈られる

**観光地としての特色を生かし
他団体との横の連携にも
刺激を受けながら活動する**

年間300万人もが訪れる観光地である指宿は、道の駅や温泉・砂蒸し・活お海道・ホテルなど特産品を置ける場所が豊富。さらに全国から2万人が参加する1月の「いぶすき菜の花マラソン大会」や「いぶすき菜の花マーチ」、5月に行われる「指宿トライア



全国からアクセスの多いホームページを販売へつなげるのが今後の課題だ(写真は商品の一例)

スロン大会」などの大きなイベント時には毎回、協会として出展しています。海の幸・山の幸といった食品から工芸品までバラエティに富んだラインアップも人気の秘訣だと思います。また、一年を通して温暖な気候と豊かな自然に恵まれた地域性を生かして、今年も九州ブランドゴルフ大会、来年は全国ゲートボール大会なども予定されています。当協会は行政から補助をもらわず、基本的に「会費だけで運営する」という方針。だからこそ自分たちのやりたいことをやりたいようにやって来られたのだと思います。かといって周りを見ないわけじゃない。市や商工会議所はもちろん、他県の団体などとも横の連携を密に取りながら方向性を探っています。夏から秋にかけてはホームページをリニューアルする予定。サイトは作りっぱなしではなく、季節やニーズに合わせてこまめに商品の変更ができるようにしなければいけません。

ふるさと特産運動推進指導員からの声

慶田周平食品担当指導員

一次産品を加工する段階で発生する副産物を、異業種他社の原材料として活用できると考え、現在、試作検討をお願いしています。もともと素材の豊富な本県ですが、こうした副産物の活用も含めて、特徴ある魅力的な特産品づくりを支援できるように、微力ながらお手伝いできればと思っていますので、活用して欲しい素材、探している素材がありましたら、お知らせください。

ブランドショップ日記より

鹿児島高校情報ビジネス科
2年生のレポートより

7月14日(木)

この三日間で、鹿児島の特産品の多さや偉大さを知ることができ、鹿児島を誇らしく思い、また興味も持てました。ショップの店員さんがお中元の注文の電話で忙しくしているなかでも、お店に来られたお客様に大きな声で対応をしている姿を見て働くことの大変さや働く人のすこさを知りました。

将来、社会に出るための心得や志を学ぶことができた三日間で、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

「東日本大震災被災地復興支援
チャリティ物産展・募金活動」お礼

4月9日～10日に鹿児島中央駅アミュ広場で開催しました標記活動の実施に際しましては、ご出展、商品のご提供および募金等を賜り、誠にありがとうございました。

お陰様で、多くの方々にご賛同をいただき、売上金、募金の全額約260万円を、4月15日、日本赤十字社鹿児島県支部に贈呈しました。今後も皆で被災地の復興を支援していきましょう。

第28回全国都市緑化かごしまフェア
花かごしま2011

ご協力、ご来場ありがとうございました

「花かごしま2011」は、目標を大きく上回る約96万人のご来場をいただき、成功裡に終了しました。当協会では、会期中66日間、延べ24社の方々のご出展をいただき、飲食物の提供、特産品の展示即売を実施するとともに、各種コンクール入賞商品をPRする鹿児島ブランドショップも設置し、本県特産品を広く宣伝紹介することができました。

ご協力、ご来場、誠にありがとうございました。